

## DIG研修についての質問にお答えします

DIGは、誰でも企画・運営ができる簡単な研修ですが、運営して行く上でいくつかのポイントがあります。このうちのいくつかは、この種の研修の経験のある方には馴染みの

ものです。また、ここに書いてある方法が唯一絶対のものではありません。何回か研修を重ね、自分たちなりのDIGの方法を見つけてください。

### Q1 DIGの参加者は何人くらいが適当ですか？

人数についてはケースバイケースです。10名以下の人数で密度の濃い議論をする場合もありますし、100名を超える参加者でわいわいがやがやするのも楽しいものです。しいて適正規模といえは1グループ10名×5グループで50名程度の研修が進行しやすい規模です。会場確保も比較的簡単で、慣れないスタッフでも全体の進行管理ができると思います。

### Q3 地図の書き込みの注意点は？

地図への書き込みは参加者が思うままに書いてもらえばそれで良いのですが、慣れないと書き込みが進まない場合があります。そこで次のようなことを心がけてみてください。

- 鉄道、幹線道路、河川など、線の形をしたものは、その形をなぞり、その脇に大きな文字で名前を書く。
  - 災害救援に関連する施設等は、少し目立つように表示し大きめの文字で名前を書く。
  - 浸水や地滑りなど面的な被害が想定される地域は、被害想定地域を線で囲み斜線などを書き入れる。
- など、ちょっとした工夫で地図が活きてきます。

### Q2 研修に必要なものは、何ですか？

たとえば50名規模の研修では以下のような物品が必要です。

- 地図(国土地理院発行の1/10000図)  
1枚450円×9枚×5グループ=20,250円
- 透明シート(50m巻×1)約15,000円
- 油性ペン(8色セット)  
1,200円×5=約6,000円
- その他  
模造紙、付箋、丸形のカラーシール、名札など  
このうち地図、油性ペンは繰り返し使えます。

### Q4 子供会や学校の授業でもできますか？

できます。子どもたちで行う場合は「自分たちのまちを歩いて、防災に関係あるものを見つけてこよう」などのテーマを決めて、実際にまちに出て、写真などを撮ってきてもらい絵地図にまとめるなど、子どもたちの興味を引くような形で行うとよいでしょう。DIGとは言えないかもしれませんが、子どもの目から見た防災マップが出来上がるので、DIGの子どもバージョンと行うことができます。

災害図上訓練DIGマニュアル(DIGマニュアル作成委員会編)より



季刊

# 防災ニュース

2014.3  
第23号

宮前区役所危機管理担当/宮前区まちづくり協議会防災部会



# DIG

## を知っていますか？

DIG(ディグ)は、災害(Disaster)のD、想像力(Imagination)のI、ゲーム(Game)のGの頭文字を取って名付けられた、誰でも企画・運営できる、参加型で簡単な災害図上訓練ノウハウの名前です。川崎市では大きな災害に備える意識を住民に持ってもらうと、DIG研修を積極的に行っていこうと考えているそうです。今回は宮前区花の台町内会のみなさんの研修の様子を通してDIGの流れをご紹介します。

# DIGの最初のステップは、 まず自分が住む地域を理解することです

DIGには堅苦しいルールはありませんが、まず最初のステップで大切なのは、**ご近所同士で地元の状況を出し合い、共有し、自分たちの住む地域をしっかりと理解すること**です。

今回取材させていただいた花の台町内会のDIG研修でも、**住民でしか分からないような危険地区の情報や被災時に頼りになりそうな人的資源の情報**が飛び交っていました。

# DIGのゴールは地域の被害を推測し、 地域として対応を考えるきっかけとなること

書き込みが済んだ地図を見ながら、グループごとに次の項目を検討して、一項目ずつ付箋に書き出します。

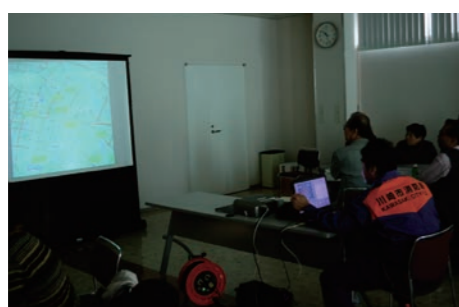
- 防災・災害救援上のプラス要素は？
- マイナス要素は？

付箋に書き出したものを模造紙に整理して発表。参加者全員が考えを共有します。

## オリエンテーション



- ①DIGの簡単な説明
- ②進行のルールの説明



- ③自己紹介  
(アイスブレイキング)

楽しみながらざっくばらんに意見を出し合うのがDIGの重要なポイントですから、DIGに入る前に発言し易い雰囲気づくりをする時間をとります。これは、緊張した硬い氷のような雰囲気を壊すという意味で、「アイスブレイキング」と呼ばれます。

## 地域を理解する



- ①自然条件を確認して、  
地図に書き込んだり付箋を貼る

- 現在の自然条件…市街地、山、平地、河川・池沼、海岸線・湖岸線など
- 昔の自然条件（分かる範囲で）…先に紹介した国土地理院の昔の地形図を活用しましょう。また、参加者の中にお年寄りがいれば、話を聞いてみます。

- ②まちの構造を確認して  
地図に書き込んだり付箋を貼る



## 地域で起こる被害を推測する



- ①地域の人的・物的防災資源を  
地図に書き込んだり付箋を貼る

地域の防災上、プラスにもマイナスにも働く施設や設備です。書き込み方は自由。付箋、丸型カラーシールを使って表示します。

- ②地域の特性、想定される被害、  
考えられる対策を模造紙に書き出します



## 参加者全員で 発見を共有する



- ①グループごとに発表し、  
参加者全員で発見を共有しましょう

まとめ、発表は、自らの発見を確認し、お互いの発見を共有するために不可欠です。時間が短い場合も一部の人に発言してもらうなどして、ぜひ行いましょう。

- ②最後に消防署の講評があって  
DIG研修は終了です

